

授業科目	発達心理学 I				実務家教員担当科目	-					
単位	2.	履修	選択	開講年次	1	開講時期	後期				
担当教員	杉本 有紗										
授業概要	発達心理学にて扱われてきた人間の発達のメカニズムについて解説する。出生前～学童期の発達プロセスおよびその仕組みについて機能ごとに解説する。										
授業形態	講義	授業方法									
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	胎児期から児童期までの各機能の発達過程とその仕組み、各発達段階の特徴、代表的な発達理論について説明することができる。										
理想的レベル	胎児期から児童期までの各機能の発達過程とその仕組み、各発達段階の特徴、代表的な発達理論について自分の言葉や例を用いて他者に説明することができる。 本講義で学んだ知識を用いて、子どもの援助をする際のアセスメントに役立てることができる。										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合 (数値)				備考						
試験	70%										
小テスト											
レポート	30%				小レポート						
発表 (口頭、プレゼンテーション)											
レポート外の提出物											
その他											
カリキュラムマップ (該当 DP) ・ナンバリング											
DP1	○	DP2	-	DP3	○	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	WE21406J
学習課題 (予習・復習)										1回の学習目安 (時間)	
テキストの次回の授業該当箇所を読んでおく。 テキストや配布資料、授業時に用いたノートを基に、学んだ授業内容を振り返り、整理する。										4	
授業計画											
第1回	テーマ：オリエンテーション・子どもの発達と環境 子どもの発達と環境との関係について解説する。										
第2回	テーマ：生涯発達の視点 生涯にわたる発達をどうとらえるのか、代表的な発達理論について解説する。										
第3回	テーマ：胎児期・周産期 子どもの出生前後の行動や感覚、知覚能力の発達、意識の発達について解説する。										
第4回	テーマ：感覚・運動の発達 新生児や乳児の知覚能力、知覚と行為の関連、運動機能の発達について解説する。										
第5回	テーマ：愛着の発達 愛着理論、愛着の発達不全、アロペアレンティングについて解説する。										

第 6 回	<p>テーマ：自己と感情の発達</p> <p>感情の発達、情動調節の発達、自己への気づき、主観的体験への気づき、自己意識の発達について解説する。</p>
第 7 回	<p>テーマ：認知の発達</p> <p>ピアジェの理論、認知の発達について解説する。</p>
第 8 回	<p>テーマ：言語の発達</p> <p>乳幼児期における言語の発達（音声、語彙、文法、思考）について解説する。</p>
第 9 回	<p>テーマ：社会性の発達</p> <p>発達早期の社会性、共同注意の発達、心の理論の発達について解説する。</p>
第 10 回	<p>テーマ：遊び・仲間関係</p> <p>乳幼児期の遊び、仲間関係の発達について解説する。</p>
第 11 回	<p>テーマ：学童期の認知発達</p> <p>学童期の認知発達、学習支援について解説する。</p>
第 12 回	<p>テーマ：学童期の言語発達・自己の発達</p> <p>学童期の言語発達、自己概念や自尊感情について解説する。</p>
第 13 回	<p>テーマ：学童期の仲間関係・道徳性の発達</p> <p>学童期以降の仲間関係、道徳性の発達、ピアジェの道徳性、コールバーグの道徳性について解説する。</p>
第 14 回	<p>テーマ：青年期の身体・認知の発達</p> <p>青年期の身体的発達、認知的発達、アイデンティティについて解説する。</p>
第 15 回	<p>テーマ：まとめ</p> <p>全体の振り返りを行う。</p>
テキスト	『ベーシック発達心理学』 開一夫／齊藤慈子編 東京大学出版会(2018)
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>『発達心理学 上 周産・新生児・乳児・幼児・児童期』 山内光哉著 ナニヲ出版(1989)</p> <p>『しっかり学べる発達心理学』 桜井茂男・大川一郎編著 福村出版(2010)</p> <p>『実践・発達心理学第2版』 青木紀久代編 みらい(2012)</p>
課題に対するフィードバックの方法	小レポートは返却する。
学生へのメッセージ・コメント	<p>「心理学と心理的支援 I」を受講していることが望ましい。</p> <p>上記のテーマに関する雑誌や新聞記事、インターネット、テレビのニュースや教育番組などを通して発達上の問題についての情報収集などを行うことが望ましい。</p>